



佐高

スーパー グローバル ハイスクール

SGH通信 2020

No.23 (2020年10月21日発行)

高校2年生

第1回 英語プレゼンテーションコンテスト

令和2(2020)年10月9日(金)の総合的な学習の時間に、高校2年生の第1回英語プレゼンテーションコンテストが行われました。

コンテストに先だって、9月中、英語表現Ⅱの授業において、生徒全員が英語プレゼンテーションに臨みました。SDGsに関するテーマの中から自分の興味のある課題を選び、パワーポイントを使いながら発表しました。

予選で選ばれた8人の代表者は、グラフやイラストを示すなど工夫をしながら、自らが選んだテーマの現状分析、問題点、課題解決の糸口などを英語で発表しました。どの生徒も、立派な態度で堂々と発表を行い、世界の諸問題に対して、自分たちに何ができるかを聴衆に考えさせるような内容でした。発表後の質疑応答では、自らの考えを英語でしっかりと表現していました。講評では、ALTであるクシャル先生が、間違いを恐れず、自信を持って英語を話すことの大切さを教えてくれました。



発表の様子

The results of the presentation contest

1st 2-4 Takahiro Usui “Marine Pollution by Plastics”

2nd 2-4 Aoi Nakajima “Forests and Global Warming”

3rd 2-2 Anju Kobayashi “To be Fair World”

The titles of the other students' presentation (出席番号順)

- 2-1 Masaki Nagatake “Child Labor”
- 2-2 Mone Kobayashi “Pollution of the Sea”
- 2-2 Kaoru Hyodo “Racial Discrimination Which Is Showed by the Corona Situation”
- 2-4 Kaho Hanasato “Food Loss in Japan”
- 2-4 Kento Murai “Extinction of Creatures”

生徒の感想

僕は英語が苦手で、人前に出て発表するのは得意ではないので、ほかの人が発表しているときは手が震えました。ただ、何度も練習して臨んだので落ち着いて、自分のスピーチをすることができました。だから、今回この賞を頂けたのは練習の賜物だと思います。コンテストの終わりに審査員からの講評でクシャル先生から直接「誰よりも自身を持ってスピーチをしていました。」と言われ言葉にならないほど嬉しかったです。

しかし、質疑応答の際、うまく英語の質問を聞き取れず答えるのに時間を要してしまったという反省もあります。機会があれば、受け答えをうまくするために英語のスキルを磨き、こんまり術で片付いた部屋くらいスッキリ終われるように頑張りたいです。

2年4組 碓氷 敬大

昨年8月に開催された SDGs に関するセミナーで初めてパーム油のことを知りました。パーム油は身近にある様々な製品に使われていて、それを作るために多くの森林を伐採し、プランテーションを行っていることに衝撃を受け、このことを多くの人に知ってもらいたいとずっと思っていました。授業で取り扱われたので、私の発表時には森林の減少について知っている人も多かったと思いますが、改めて発表することで、皆も更に関心を持ってくれたと思います。

発表は専門用語の使用を避け、「伝える」ことを意識しました。また、人前で話すことやプレゼンが苦手なのでたくさん練習しました。原稿とパワーポイントの作成や練習にかなり時間を費やしたので、受賞は努力が報われたと感じました。

2年4組 中島 碧

この度は、入賞させていただき本当にありがとうございます。英語で自分の考えを表現することは難しかったですが、今回の経験は今後の自信につながっていくと思います。さて、私のプレゼンの中で伝えたかったことは、「私たちの日常を当たり前だと思っはいけない。」ということです。貧困国の方々にとっては、明日の朝を迎えることですら確信を持てません。私たちの行動がその貧困の原因となり得るといこと、その解決策としてフェアトレードがあるということ、を知っていただきたいです。私のプレゼンを聞いて、少しでも皆さんに、遠い国で起きている事実を目を向けてもらえたら嬉しいです。これからも英語とSDGsに携わる活動の両立を頑張ります。

2年2組 小林 杏珠

